

内部河川・運河の活用と コミュニティ強化プロジェクト

PROJECT MEMBER

〈代表者〉	工学部 建築学科	教授：志村秀明
〈構成員〉	システム理工学部 環境システム学科	教授：中野恒明
	工学部 土木工学科	教授：守田優
	デザイン工学部 デザイン工学科	教授：篠崎道彦、前田英寿
		准教授：桑田仁

江東区と中央区は、多くの河川と運河をもつ。その再生と活用は大きな課題である。また両区は、都心回帰で人口増加が続いているが、地域コミュニティは希薄化している。地域コミュニティの強化は緊急の課題である。

そこで本活動は、以上のような課題の解決を目指し、内部河川・運河の活用とコミュニティ強化をテーマとして、学生への教育と研究、社会貢献を相互に連動させて進めるものであった。

教育では、建築学科「地域設計演習」「地域分析演習」において、江東内部河川の魅力向上・活用やコミュニティ強化を課題とし、市民リーダーのレクチャーと講評、地域施設での展示を行った。また建築学科「建築ゼミナール2」では中央区月島地区を対象としてコミュニティ強化ための提案を作成し、市民に対する発表会を行った。研究では、港区の河川の水質観察、江東内部河川の利用状況に関する実態調査、江東区の建物緑化の実態調査、江東区の子育て世代の地域参加状況に関する調査、商店街の再生に関する実態調査を行い、それぞれ学生が卒業論文としてまとめた。また学会での発表と査読論文での発表も行った。地区協議会やNPOと連携してのイベント開催、河川・運河活用を促進するためのシンポジウムの開催、著書の出版、市民講座の開講などを行った。

2013年度 活動の成果

教育

- 1) 建築学科「地域設計演習」「地域分析演習」（3年次後期）において、江東内部河川の魅力向上・活用やコミュニティ強化を課題とした。テーマは「内部河川と緑を中心とするコミュニティ・デザイン」で、江東区深川門前仲町地区を対象とした。履修者は17名であった。最初の授業では、対象地区を視察すると共に、市民リーダー2名から地域に関するレクチャーをいただいた。また、船舶をチャーターし、水上から地域の状況を確認した。授業最終日の発表会では、まちづくりの市民リーダー3名をゲストとして招聘し、学生の提案についてコメントをいただいた。これにより学生は、実際の市民から自己の提案についての評価を確認することができた。更に、学生が製作した提案は、2014年3月下旬から2週間にわたって「深川東京モダン館」において展示される。展示には、学生が交代で立ち会い、来場する市民の評価を確認することができる。
- 2) 建築学科「建築ゼミナール2」において、運河の活用とコミュニティ強化を課題とした。テーマは「月島のリノベーションを提案する」で、中央区月島地区を対象とした。このゼミナールは研究室単位でテーマを決めて実施するため、本テーマへの履修者は8名であった。ゼミナールの最終回では、本学の地域貢献施設である「月島

長屋学校」において、地元市民を招聘して成果発表会を開催した。

3) 地域について学習する科目「地域計画」(建築学科2年次、2単位)を必修科目とすることを、建築学科教室会議で決定した。

4) 江東区の河川と運河の活用とコミュニティ強化に関する研究が、建築学科卒業論文において4本取り組みられ、また修士研究において1本が取り組みられた。

研究

1) 土木工学科都市環境工学研究室が、港区の河川の水質観察を2014年11月に実施した。19名の学生が参加し、河川の流速、溶存酸素、塩分などを明らかにし、その成果は卒業論文としてまとめられた。

2) 江東内部河川の利用状況に関する実態調査を行った。その成果は、卒業論文「市民・民間事業者による河川活用の実態に関する研究」と、修士論文「高度経済成長期以降の江東内部河川・運河の利用に関する研究」にまとめられた。

3) 江東区の建物緑化の実態調査を、NPO法人江東区の水辺に親しむ会と連携して行った。その成果は、卒業論文「市民・事業者発意による建物緑化の実態に関する研究」にまとめられた。

4) コミュニティ強化に関する研究として、まず江東区で増加する子育て世代の地域参加状況について調査・分析を行った。その成果は、卒業論文「育児世帯における地域参加の可能性に関する研究」にまとめられた。また商店街の再生に関する知見を得るために、深川江戸資料館通り商店街を対象として調査・分析を行った。その成果は、卒業論文「新規参入個人事業者のコミュニティ参加に関する研究」にまとめられた。

5) 江東区の景観形成施策に関連する市民活動に関する研究を大学院生がまとめ、日本建築学会大会都市計画部門研究懇談会において「景観重点地区指定による住民団体設立と相互連携」として発表した。

6) 江東区の小学校と市民、大学が連携する地域学習プログラムに関する研究を、大学院生が査読論文にまとめ、「小学校・大学・住民の連携による「まちのカルタづくりワークショップ」の開発」日本建築学会技術報告集第

20巻第44号で発表した。

社会 貢献

1) 内部河川・運河の活用とコミュニティ強化を目的に、豊洲地区運河ルネサンス協議会と連携して、市民がクルージングなどで運河や水辺を楽しむイベント「豊洲水彩まつり」を2013年9月に開催した。約1,300人の市民が来場し、運河と水辺を楽しんだ。

2) 運河の活用を促進しようとするイベント「お台場Eボート防災交流大会」(2013年9月開催)に約30名の学生が参加した。学生は運河活用を実践すると共に、多くの大学生や市民と交流した。

3) 内部河川・運河の活用を促進するために、豊洲地区運河ルネサンス協議会と連携して「豊洲クルーズ&フォーラム」を2014年3月に開催した。広島市で水上タクシーや水辺オープンカフェの取り組みをしている市民リーダーの基調講演と、江東区の代表を交えてのパネルディスカッションを開催した。来場者は市民や江東区・東京都の職員を含め109名の参加を得た。

4) 中央区月島地区のコミュニティ強化の取り組みとして、2013年10月に月島長屋学校を開校した。この月島長屋学校では、「建築ゼミナール2」の現地ゼミを行った。また2014年1月には、学生の成果発表会を開催した。

5) 中央区月島地区の歴史と生活文化について、著書「月島再発見学」にまとめ出版した。

6) 江東区を中心に活動しているNPOと連携して、市民向け連続講座「最先端を親子で学ぼう」を開始した。2014年には、そのスタートアップイベントと第1回講座を開催し、約30組の親子が参加した。

7) 地域連携・生涯学習センターが担当して実施している「オープンテクノカレッジ」において、江東区文化センターなどと連携する講座として、土木工学科の教員が水資源や地盤沈下問題に関する講座の講師を務めた。

地域設計演習 ～学生から市民への提案～

建築学科「地域設計演習」が、市民といった地域と連携して開講された。

この演習は、3年後期に「地域分析演習」とセットにして開講している。2013年度は、江東区深川門前仲町地区を対象とした。

深川地区は江戸時代からの歴史があり、伝統的な地域コミュニティがあるが、近年の都心回帰の傾向で、新規居住者が増えている。高齢化といった問題もあり、新たなコミュニティ像を模索する必要がある。また、産業構造の転換により、中小企業が減少し、商店街は衰退している。地域活力の低下に歯止めをかけるまちづくりが求められている。更に、内部河川では舟運利用が少なく、水害対策としての堤防などにより、水辺と市街地との関係が希薄になっている。水辺空間を改善し、魅力の向上と利用の促進を図らなければならない状況にある。

そこで学生達は、地区の地域資源である内部河川と緑を活用するコミュニティ・デザインに取り組んだ。利用者の少ない公園のランドスケープ・デザイン、生活感を大切にした大横川沿いの街区デザイン、住民と来訪者が交流することができる水辺空間デザイン、歴史的近代建築と隅田川沿いを活用するコンバージョン・デザインが提案された。

発表・講評会は、市民(門前仲町地区の住民兼観光協会理事、深川地区の住民兼NPO理事長、門前仲町地区にある観光拠点副館長)の3名をゲストコメンテーターとして招聘し2014年1月21日に開催された。学生は図面



発表・講評会：市民に対して真剣に提案をアピール、ゲストからは様々なコメントをいただいた

に加えて、ビデオ映像、模型、パワーポイントを使用して発表し、自分たちの提案をアピールした。ゲストからは、刺激になった点、実現したい点、アドバイスなどがコメントとして寄せられた。発表会後のポスターセッションでは、学生達と市民が自由に意見交換し合った。この発表会の様子は、本学ウェブサイトでも発信している。

<http://online.shibaura-it.ac.jp/sit360/3974/>

月島のリノベーション提案 ～月島長屋学校～

建築学科「建築ゼミナール2」において、中央区月島地区のコミュニティ強化をテーマとするプログラムを実施した。

月島は、路地と長屋からなる昔ながらの街並みをとどめており、その特徴ある街並みは、個性的で魅力的ではあるが、建物が狭小であることや老朽化していることなどから、居住環境の改善が求められている。そこで、街並みの魅力を維持・活用しつつ、居住環境の改善と新たな活力を呼び込むような建物とまちのリノベーションを検討し、提案することをテーマとした。

学生達は、月島にある芝浦工業大学の研究・地域貢献施設「月島長屋学校」を拠点として、まちの調査・分析を行い、それをもとに提案を作成した。実際のまちを体験的に把握し、それにもとづいて計画・設計する能力を向上させることが狙いだ。2014年1月27日には、「月島長屋学校」において、提案の発表会が開催された。発表会には、月島地区の住民兼観光ボランティアの2名の市民がゲストコメンテーターとして参加した。学生達は、



月島長屋学校での発表会：学生と市民との距離が近く親密に意見交換することができた

月島長屋学校を活用した情報発信の方法、スマートフォンを用いるまち歩きガイド、長屋のコンバージョンを提案し、それらに対してゲストからは大学の地域活動に期待するコメントが多くあった。この様子は月島長屋学校のウェブサイトでも発信している。

<http://www.tsukishima.arc.shibaura-it.ac.jp>

豊洲水彩まつり ～水辺の社会実験イベント～

豊洲地区運河ルネサンス協議会や企業、NPO、自治体の連携によって、「豊洲水彩まつり」を2013年9月21日に開催した。

運河ルネサンスとは、運河の活用を促進するために東京都が設けた制度で、豊洲地区では2009年3月に運河ルネサンス協議会が設立した。芝浦工業大学は、社会貢献の一つとして豊洲地区運河ルネサンス協議会の事務局を務めている。その関係で、本学協の豊洲運河に、船着場が江東区によって整備された。それ以来、運河クルーズと水辺オープンカフェを柱とする「豊洲水彩まつり」が開催されている。これはイベントではあるが、運河活用とコミュニティ強化を目的とする社会実験として、市民の運河クルーズの評価、水辺活用の評価を調査・分析している。2013年度では、夕暮れの運河クルーズ、水辺のキャンドルアート、キャナルバー、水辺のフォトコンテストなどを社会実験として実施した。天候に恵まれたこともあり約1,300人という多くの市民が来場し盛り上がった。運河クルーズのチケットは1時間で完売し、市民の運河活用の意向が強いことが改めて確認できた。



豊洲水彩まつり：
運河クルーズは
大盛況、多くの
市民がクルーズ
と水辺を楽しん
でいた

この社会実験イベントには、ルネサンス協議会の会員が多くのスタッフとして活躍したが、本学からも多くの職員と教員、また10名程の学生がスタッフとして参加した。学生達は運河活用とコミュニティ強化の方法を体験的に学ぶと共に、問題なく円滑にイベントを実施するための準備とチームワークを学び、また多くの市民とふれあうことで様々なことを学んだ。

連続市民講座 ～最先端を親子で学ぼう～

江東区豊洲地区のNPOと芝浦工業大学が中心となり、連続市民講座「最先端を親子で学ぼう」を2014年1月から開始した。

NPO 東京湾岸コミュニティが事務局を務め、本学や日本科学未来館などがメンバーとなる「東京子供最先端教育推進準備協議会」が主催するものである。1月26日にはスタートアップとしてフォーラム「2020年を見据えて、子供たちに何をしてあげられるか？」を本学で開催し、江東区副区長などが挨拶すると共に、協議会メンバーの代表がこれからの取り組みについて発表した。また第1回目の講座として本学「宇宙開発学生団体Hoper's」による「親子でペットボトルロケットを作ろう」が開講され、約30組の親子が参加し、ペットボトルロケットを製作し、その後完成したロケットを本学中庭で打ち上げた。天候に恵まれたこともあり大いに盛り上がった。

本学は社会貢献の一つとして、今後も講座開催や会場提供などを行い、年間6回程度の講座を開講し2014年春までに4つの講座が予定されている。



ペットボトルロ
ケット製作講座：
多くの親子が参
加、ロケット打ち
上げも盛り上が
りを見せた